

麗か	麗かやりボンは解いてもリボン	2018. 1.25	春	ご機嫌よう迎への春に乗つて行く	2018. 5.25
	麗かにリボンを解く指の先	2018. 1.29		ご機嫌よう迎への春へ乗つて去る	
	麗かにリボンを解く力かな			いざ去らば迎への春が来たやうだ	2018. 5.26
	麗かやするするリボンほどかれて			いち早く迎への春に飛び乗つて	
	麗かやするするリボン解かれて			ご機嫌よう春の迎へが来たやうだ	
	麗かやりボンするする解かれて			春の日 切株に春の光の眩しさよ	2018. 5.20
	麗かやりボンを解く細き指			春宵 <u>春宵も余生も値千金ぞ</u>	2018. 5.17
	麗かやりボンを解く指の先		日永	背伸びして永くなりたる日を思ふ	2018. 5.23
	麗かやりボンを解く指二本			背伸びして永くなりたる日と思ふ	2018. 5.24
	麗かやりボンを解く白き指			背伸びして永くなりたる日を浴びて	
麗かやりボン解いて長リボン	2018. 3.28		<u>背伸びして欠伸して日の永きかな</u>		
春昼	轆轤より壺立ち上る春の昼	2018. 5. 7		日の永きことを言ひ合ふ昼休	
春	咲き満ちて草木の春となりにけり	2018. 5.24		<u>日の永くなりたることを昼休</u>	2018. 5.25
	日を浴びて草木の春となりにけり		啓蟄	啓蟄や鳥籠に散る鳥の餌	2018. 1.13
	よく晴れて草木の春となりにけり			<u>啓蟄の光の穴となりにけり</u>	2018. 4.12
	ふつつと草木の春となりにけり		春雨	煙突の「ゆ」の字をぬらす春雨	2017.11.23
	ほつほつと草木の春となりにけり			煙突の大きな「ゆ」の字春雨	2018. 5.25
	芽吹きたる草木の春となりにけり			切株に降る春雨や流れ落つ	2018. 5.13
	野に山に草木の春となりにけり			<u>切株に春雨の雨ふる流れ落つ</u>	
	野に山に草木の春の来りけり			切株に春雨が降り流れ落つ	
	少しづつ草木の春となりゆけり			切株に春雨が降る流れ落つ	
	而して草木の春も爛漫に			切株に春雨降るや流れ落つ	
	而して草木の春も闌に			切株に降る春雨の流れ落つ	
	虫も来て草木の春の気忙しき			切株は春雨に濡れ易きかな	
	虫も来て草木の春の賑やかに			切株は春雨に濡れ明るけれ	
	虫も来て草木の花も賑やかに			切株の春の雨こそ明るけれ	
	はなやかに草木の春や虫も来て	2018. 5.25		切株に春雨の雨こそ明るけれ	2018. 5.15
	はなやかに草木の春や虫も飛び			切株のまだ新しき春雨	2018. 5.19
	はなやかに草木の春や蝶も飛び	2018. 5.26	春雨	<u>春雨や貝の隠る砂の中</u>	2018. 1. 5
	蝶の季節花の季節のなりにけり		春の風	春風で廻り春水で廻すもの	2018. 5. 8
	蝶生れて花の季節となりにけり		春の闇	<u>煙突の大きな「ゆ」の字春の闇</u>	2018. 5.30
	蝶飛んで花の季節となりにけり			金色の佛を入れて春の闇	2018. 5.18
蝶飛んで花の季節の来りけり	2018. 5.27		金色の佛の御座す春の闇	2018. 5.19	
<u>蝶飛んで百花の春となりにけり</u>			金色の佛の眠る春の闇		
お迎への春来たりなば乗り込み	2018. 5.21		金色の佛も眠る春の闇		
づかづかと迎への春に乗り込みぬ			金色の秘仏ありけり春の闇		
づかづかと迎への春へ乗り込みぬ			金色の秘仏なりけり春の闇		
<u>ご機嫌よう迎への春が来たやうだ</u>	2018. 5.25		金色の佛を置いて春の闇		
ご機嫌よう迎への春が来たらしい			金色の佛の消えて春の闇	2018. 5.21	
ご機嫌よう迎への春に乗つて去る			金色の佛も消えて春の闇		

春の闇	金色の佛の見ゆる春の闇	2018. 5.24	草餅	草餅のまだ暖かに子らを待つ	2018. 5. 2
春の雪	轆轤より壺立ち上る春の雪	2018. 5. 7		草餅のほの暖かに子らを待つ	2018. 5.18
春の虹	切株は丸い傷跡春の虹	2018. 5.22		草餅のほのかな温み子らを待つ	2018. 5.19
春の水	金粉を金泥とする春の水	2018. 5.17		草餅のほのかに温し子らを待つ	2018. 5.24
春の山	川が曲り鉄路がくねり春の山	2017.12.20	野遊	野遊に玩具の如き小川かな	2017.11.19
	発掘を逃れし壺や春の山	2018. 5.21	夜桜	夜桜にごとんと自動販売機	2018. 5.22
	発掘は一つ隣りの春の山	2018. 5.23		夜桜のごとんと自動販売機	
山笑ふ	山笑ふ千年ぶりに掘り出され	2018. 1. 5		夜桜のごろんと自動販売機	
	これがまあ栄華の跡か山笑ふ	2018. 1. 6		夜桜のごろんと自動販売機	
	掘り出して遺跡眩しや山笑ふ		亀鳴く	亀鳴くや浦島翁と戯れて	2018. 1. 6
	三代の栄華ありけり山笑ふ			亀鳴くや浦島翁に戯れて	
	山笑ふまだ覚めやらぬ出土品			亀鳴くや浦島翁のその浜辺	
	山笑ふ人は遺跡に傳きて			亀鳴くや龍宮城に来てみれば	
	山笑ふ人は遺跡に跪き			亀鳴くや浦島翁を懐しみ	2018. 1.10
	山笑ふ千年ぶりの出土品			亀鳴いて浦島翁の昔かな	2018. 2.21
	山笑ふ千年を經し出土品			亀鳴いて浦島翁を慰むる	
	山笑ふ千年前の出土品			亀鳴いて浦島翁を思ふかな	
	山頂に望遠鏡や山笑ふ			亀鳴くや浦島翁も老いたれば	
	三代の栄華の跡か山笑ふ	2018. 1.28		亀鳴くや浦島太郎物語	2018. 2.22
	三代の栄華の跡よ山笑ふ			亀鳴くを聞くは浦島太郎かな	
覚めやらぬ出土の品や山笑ふ	2018. 1.29	桜貝	引く波の砂にこすれて桜貝	2018. 5.29	
その上に展望台や山笑ふ	2018. 1. 6		引く波の砂にこする桜貝		
頂に展望台や山笑ふ		蝶	雲水の峠を越ゆる蝶々かな	2017.11.19	
発掘を逃れし壺や山笑ふ	2018. 1.30		山奥に水進む蝶々かな	2017.11.22	
薄氷	薄氷を置き切株の朝かな	2018. 5.20		山国に水進む蝶々かな	
	薄氷を置き切株の朝早し		雲雀	呼び寄せて雲雀と遊ぶ天使かな	2017.11.12
	薄氷を置き切株の目覚かな			揚雲雀天使の国に遊ぶかな	2018. 1. 6
薄氷や切株の上を滑り落つ	2018. 5.21	堇	すみれ草遊んでくれてありがたう	2018. 1. 1	
梅見	その中に梅見の神の秘かなる	2018. 5. 5		花すみれ遊んでくれてありがたう	2018. 1. 6
	密やかに静かに神の梅見かな		梅	白刃の匂ふが如き夜の梅	2018. 5.21
	密やかに秘かに神の梅見かな			白梅は神の依代匂ひ立つ	2018. 5.21
	白梅の秘かに神の梅見かな	2018. 5.19		紅白は神の依代梅匂ふ	2018. 5.25
	白梅は神の梅見ぞ匂ひ立つ	2018. 5.20		紅白の梅の匂へる神の里	
	白梅に神の梅見のたけなはに			紅白の神に仕へる梅匂ふ	
	白梅に神の梅見の闌に		紫雲英	れんげ草遊んでくれてありがたう	2018. 1. 1
	白梅や神の梅見のたけなはに			紫雲英田に遊んでくれてありがたう	2018. 5.22
	白梅を神の花見と思ひけり		蒲公英	たんぽぽや遊んでくれてありがたう	2017.12.31
	白梅は神の梅見か匂ひ立つ			たんぽぽと遊んでくれてありがたう	2018. 1. 6
紅白の梅は依代匂ひ立つ	2018. 5.22	桜	桜前線見てきたやうに嬉しげに		
草餅	草餅やまだ暖かに子らを待つ	2018. 5.14		山の湯の夜を満開の桜かな	2018. 5. 1

桜	おのづから時の満ち行く桜かな	2018. 5. 2	山桜	発掘を逃れし壺や山桜	2018. 5.20
	<u>おのづから時の満ち来る桜かな</u>		涼し	雨垂れに小石あらはれ地涼し	2018. 5.23
	重たくて雨呼ぶ桜なりしかな	2018. 5. 2		雨垂れに小石の出でて地涼し	
チューリップ	花散つて入園式のチューリップ	2018. 5.18		雨垂れに小石出でたる地涼し	
	葉桜の入園式のチューリップ	2018. 5.19		雨垂れに小石敷き延べ地涼し	
	<u>花過ぎの入園式のチューリップ</u>	2018. 6. 8		雨垂れに小石敷き詰め地涼し	
躑躅	垣の上に置かれし如く躑躅かな	2018. 5.18		雨垂れに小石並べて地涼し	
	蕊白く伸びて躑躅の終りかな	2018. 5.17		雨垂れに涼しき小石敷き延べて	
	ひよろ長き蕊残りたる躑躅かな			雨垂れに涼しき小石敷き詰めて	
	ひよろ長き蕊の残りし躑躅かな	2018. 5.24		雨垂れの石となるこそ涼しけれ	
	ひよろ長く蕊の伸びたる躑躅かな	2018. 5.30		並びたる雨垂石の涼しさよ	
	残りたる蕊がひよろひよろ躑躅かな			雨垂れに小石の並ぶ地涼し	2018. 5.24
	残りたる蕊がひよろりと躑躅かな			雨垂れに涼しき小石並びたる	2018. 5.26
	<u>蕊だけがひよろりと伸びし躑躅かな</u>	2018. 5.31	初夏	円盤を遠くへ飛ばす夏始	2018. 4.13
	蕊だけ残りひよろりと躑躅かな			円盤を犬の追ひ行く夏始	2018. 4.16
花	七曜を満たして花の盛りかな	2015. 8. 5	夏始	<u>塩辛に烏賊や鰹や夏始</u>	2018. 5.18
	七曜に満たざる花の盛りかな	2017.11.20	入梅	飛ぶ虫と這ふ虫のゐて梅雨入かな	2018. 5.18
	七曜に満たざる花の盛かな	2018. 1. 5		飛ぶ虫に這ふ虫もゐて梅雨入かな	
	堪へ切れずに満開の花の漏り	2018. 5. 2		飛ぶ虫に這ふ虫も来て梅雨入かな	
	満開の花の中より一二片			飛ぶ虫に這ふ虫も出て梅雨入かな	2018. 5.19
	満開の花の中より零れ初む		梅雨入	<u>飛ぶ虫に這ふ虫も出て梅雨の入り</u>	2018. 5.21
	満開の花の中より零れ来る		薫風	<u>薫風に畳の季節来りけり</u>	2018. 5.21
	満開の堪へ切れずに花の漏り			発掘を逃れし山や風薫る	2018. 5.23
	満開の花の中より花の漏り			発掘を免れし山風薫る	
	花守の為す術もなき花の漏り	2018. 5. 3		薫風に切株の香を加へけり	2018. 5.13
	花守も覚悟の上の花の漏り	2018. 5.13		薫風に切株の香の秘かなる	
	花漏りを茶碗に受ける宴かな	2018. 5.17		薫風に切株の香を加ふべし	
	一つほろ二つほろほろ花の漏り	2018. 5.21	雲の峰	切株に地図を広げて雲の峰	2018. 2.17
	繕ひもならずほろほろ花の漏り			梅干は御飯の中や雲の峰	2018. 5. 7
	花漏りを茶碗に受けて宴なり			梅干は白米のなか雲の峰	
	綻びし処にほろと花の漏り			梅干は米に隠れて雲の峰	
	満開の処々に花の漏り	2018. 5.22		おにぎりの中の梅干雲の峰	
	満開の少しゆるびて花の漏り			梅干はおにぎりの中雲の峰	2018. 6. 8
	咲き満ちて少しゆるびて花の漏り	2018. 5.23		雲の峰太き電池を直列に	2018. 5. 9
	咲き満ちて処々に花の漏り	2018. 5.24		雲の峰太き単一乾電池	
	満開のこらへてあしが花の漏り	2018. 5.26		雲の峰太くて硬き乾電池	2018. 5.11
	満開のこらへてあたる花の漏り			雲の峰太くて重き乾電池	
	<u>満開の一点つひに花の漏り</u>			親玉の如き電池や雲の峰	2018. 5.13
	<u>満開のこらへ切れずに花の漏り</u>	2018. 6. 8		直列の太き電池や雲の峰	
	重たくて雨呼ぶ花となりにけり	2018. 5. 2		雲の峰太くずつしり乾電池	

夏の月	切株の儂き夢を夏の月	2018. 5.13	蚊遣	切株のやうな残生蚊遣香	2018. 5.15
夕立	夕立の去つて静かな夕餉かな	2018. 5.17		切株の如き残生蚊遣香	
	夕立の去つて静かな夕ごはん	2018. 5.18		切株の如き残生蚊遣の火	2018. 5.16
	夕立の去つて物食ふ静けさよ			切株の如き余生に蚊遣の火	2018. 5.18
	夕立を見てみる巫女のアルバイト			飛ぶ虫と這ふ虫のゐて蚊遣の火	2018. 5.18
	夕立の去つて静かな晩ごはん	2018. 5.28	金魚玉	雨だれが小石に弾け金魚玉	2018. 5.30
	夕立の去つて静かな晩御飯			雨だれが石に弾けて金魚玉	2018. 5.31
	夕立の去つてかたこと晩ごはん			雨だれが石に弾ける金魚玉	
	夕立の去つてことりと晩ごはん		草笛	これは草笛とはならぬただの草	2018. 3.22
	夕立後かたりことりと晩ごはん		天花粉	すやすやと笑顔なりけり天花粉	2018. 2. 7
	夕立後のかたりことりと晩ごはん			すやすやと笑顔ほのかに天花粉	
	夕立後の夕餉に強き火を使ふ			すやすやと赤子ほのかに天花粉	
	夕立後の強き火使ふ夕餉かな		蠅叩	仕損じて次の間へ行く蠅叩	2018. 5.18
	夕立の去つて物食ふ寂しさよ	2018. 5.18		仕留めては次の間へ行く蠅叩	2018. 5.19
	夕立の去りて物食ふ寂しさよ	2018. 5.20	箱庭	箱庭の人は旅人かも知れず	2015.12. 8
	夕立の後に飯食ふ寂しさよ	2018. 5.24		箱庭の人は旅人かも知れぬ	2018. 4.12
	夕立の後に物食ふ寂しさよ			箱庭に夕日の色の電車かな	2018. 4.22
	移り気で力任せの夕立かな	2018. 5.18	噴水	噴水を照らす光が水の中	2018. 5.22
	移り気な力任せの夕立かな			噴水に噴水ほどの夕立来る	2018. 5.14
	移り気の花任せの夕立かな			噴水の如き夕立が噴水に	
	飽きやすき力任せの夕立かな			噴水のしぶいて水に戻りけり	2018. 5.22
泉	こんこんと泉古くて新しき	2017.11.20	ラムネ	アーノルド・シュワルツェネッガーラムネ飲む	2018. 1.19
アイス	幽霊もアイスクリームもどろどろと	2018. 5. 7	母の日	母もその母もなき日の母の日よ	2018. 4.22
アイス	落ちて行くミルクよアイスコーヒーよ	2018. 1.25		母のなきその母もなき母の日よ	2018. 5. 2
コーヒ	珈琲の氷の間をミルク落つ			母もなきその母もなき母の日よ	
ー	珈琲の氷を滑るミルクかな	2018. 1.28		母もなくその母もなき母の日よ	
	珈琲の氷を落ちて行くミルク		蛍籠	雷の近づいて来る蛍籠	2018. 6. 4
	珈琲のミルクの滑る氷かな	2018. 2.19	夏休	日曜と少し思ひぬ夏休	2018. 2. 2
打水	打水の渚を広げまた広げ	2018. 5.25		日曜の影薄かりし夏休	
蚊遣	蚊遣火の紅一点の涼しさよ	2018. 5.17		日曜の思ひ夏休の思ひ	
	蚊遣火の紅一点の涼しけれ	2018. 5.23		日曜の物足りなくて夏休	
	切株に月日ありけり蚊遣香	2018. 5.14	端居	端居する人なきままに日が暮れて	2018. 4. 4
	切株に後の歳月蚊遣香		裸	その中のひときは小さき裸かな	2017.10. 3
	切株に残る月日や蚊遣香			その中のひときは小さき裸の子	2018. 5.28
	切株に残る歳月蚊遣香			その中のひときは小さき裸子よ	
	切株に余生ありけり蚊遣香			裸子の中のひときは小さき子	2018. 5.29
	切株のやうな人生蚊遣香			裸子の中のひときは小さき子よ	
	切株の後の歳月蚊遣香			裸子の中のひときはちひさき子	
	切株にその後ありけり蚊遣香			裸子の中のひときはちひさな子	2018. 5.30
	切株としての歳月蚊遣香		巴里祭	半袖の亜米利加人や巴里祭	2018. 4.22

祭	踏切のかんかん照りに立ち尽す	2018. 2.19	蜘蛛	諸々を腹に融かして蜘蛛の糸	2018. 2.22
祭笛	祭笛力合せてあたりけり	2018. 4.27		蝶いくつ腹に融かして蜘蛛の糸	
	祭笛力を合せあたりけり	2018. 5.25		融かされて蝶々の翅が蜘蛛の糸	
	寄り合つて力合せて祭笛	2018. 5.27	海月	月であり母でありたるくらげかな	2018. 5.18
	澄みわたる力なりけり祭笛			母であり月でありたるくらげかな	
	雷を呼ぶ祭の笛や、、、	2018. 5.28		母のごとく月のごとくにくらげかな	
	力ある祭の笛や雷を呼ぶ		蜥蜴	胴体を運んで行きし蜥蜴かな	2018. 5.11
	雷呼べば雨も来りぬ祭笛			胴体を運んで消ゆる蜥蜴かな	
	雷呼べば雨伴ひぬ祭笛			胴体の長きを運ぶ蜥蜴かな	
	雷を呼び雨を伴ひ祭笛		火取虫	火が点いて即ち火蛾や直ぐに消ゆ	2018. 1.16
黒雲に雷鳴り初めし祭笛			火が点いて忽ち火蛾や直ぐに消ゆ	2018. 1.16	
<u>雷の近づいて来る祭笛</u>	2018. 5.30		火が点いて忽ち火蛾や燃えて消ゆ		
四万六	東京の四万六千日の晴れ	2018. 5.12		火が点いて即ち火蛾や燃えて消ゆ	2018. 2.22
千日	飛行機や四万六千日の晴れ		蛇	顔を先頭にして蛇進む	2018. 5.11
	飛行場四万六千日の晴れ			貌を先頭にして蛇進む	2018. 5.16
	<u>羽田空港四万六千日の晴れ</u>			貌を先頭にして蛇の行く	2018. 5.17
揚羽蝶	鉛筆の黒生温し揚羽蝶	2018. 4.22		貌を先頭にして蛇長し	
蟻	蟻一つ水に浮んであたりけり	2018. 3. 3	螢	サイレンの防空壕に螢かな	2018. 3.14
	蟻一つ浮んでゐたる水たまり	2018. 4.22		終列車見送る如く螢かな	2018. 5.11
	蟻一つ浮んでゐたるバケツかな	2018. 5.17		終列車遣り過したる螢かな	
	蟻一つ浮んでゐたるプールかな			終列車消えて忽ち螢増ゆ	
	蟻一つ浮んでゐたる盥かな			終列車彼方に消えて螢増ゆ	
	蟻一つ浮んでゐたるポリバケツ			螢舞ふ彼方に小さき終列車	
	蟻一つ浮かべ玩具のバケツかな			螢舞ふ彼方に消ゆる終列車	
	蟻一つ浮かべ小さなバケツかな			終列車彼方に消えて螢かな	2018. 5.13
	蟻一つ浮かべ小さなポリバケツ			終列車彼方に消えて螢舞ふ	
	<u>蟻一つ浮かべて小さき子のバケツ</u>			終列車彼方に消えて螢の夜	2018. 5.28
ががん	壁抜けの遅参を悔むががんぼか	2018. 5.20		<u>終列車彼方に消ゆる螢かな</u>	2018. 5.29
ぼ	壁抜けに間に合はざりしががんぼか	2018. 5.22		雨夜かな螢は歩き赤子這ふ	2018. 5.18
	<u>壁抜けに間に合はざりし蚊の姥か</u>	2018. 5.25		雨の夜に螢は歩き赤子這ふ	2018. 5.19
兜虫	兜虫白く大きな皿の上	2018. 2.17		雨の夜を螢は歩き赤子這ふ	
金魚	尾頭の尾の絢爛の金魚かな	2018. 2.13		雨の夜を螢は歩き嬰は這ふ	2018. 5.20
蜘蛛	粉つばいものを食みをる蜘蛛の口	2018. 4.13	紙魚	食ひ尽すまでに間のある紙魚の本	2018. 5.23
	食はれたる物の果なる蜘蛛の糸	2018. 2. 8	薔薇	薔薇園の開園を待つ鉄扉かな	2018. 3. 4
	食はれたる物の転じて蜘蛛の糸			<u>薔薇園の開園を待つ鉄扉なり</u>	2018. 5.21
	喰ひたる物を融かして蜘蛛の糸	2018. 2.21		飲み込めぬ真つ赤な薔薇が口の中	2018. 3. 7
	もろもろを腹に融かして蜘蛛の糸	2018. 2.22		血を流す真つ赤な薔薇が口の中	
	<u>よく噛んで混ぜて融かして蜘蛛の糸</u>		牡丹	<u>牡丹やどかと置かれしランドセル</u>	2018. 5. 7
喰ひたるを腹に融かして蜘蛛の糸		青梅	青梅の青き日数や匂ひけり	2018. 4.30	

青梅	青梅の青き日数を匂ひけり	2018. 4.30	秋風	切株の根の全開や秋の風	2018. 5.13
紫陽花	天気図も傘差してゐる濃紫陽花	2018. 3. 5		切株の息の根あはれ秋の風	2018. 5.22
黴	錆びたるは硬く黴びたるは柔らかし	2018. 5.21		切株は自らの墓秋の風	2018. 5.24
	自転車のサドルの黴に驚きぬ	2018. 5.26		切株はその木の墓標秋の風	2018. 5.27
	自転車の錆び行くままにサドル黴び			切株は己の墓標秋の風	
	錆釘を残して板の黴だらけ			切株は墓標なりけり秋の風	
	釘の頭は錆びて膨るる板は黴び			切株は即ち墓標秋の風	2018. 5.28
秋	釘の頭の錆びに膨るる板は黴び		天高し	天高くなりにはけるかも黄金の穂	2018. 5.23
	釘の頭は錆びに膨るる板は黴び			天高くなりにはけるかも穂を垂れて	
				天高くなりにはけるかも穂は黄金	2018. 5.24
花菖蒲	花菖蒲ほんとに雨となりけり	2018. 5. 9		天高くなりにはけるかも稲穂は黄	2018. 5.25
秋	秋の島細くて長き秋津島	2018. 4.13	秋の雨	他愛なく土に消え行く秋の雨	2018. 5. 2
秋の暮	本棚の重きに耐へて秋の暮	2018. 3.22	星月夜	星月夜空は高さを失へり	2018. 5.18
秋の夜	本棚は重きに耐へて秋の暮			星月夜空に高さのなかりけり	
	金色の佛尊し秋の闇	2018. 5.28	天の川	あの銀河なの銀河へと重なりぬ	2017.12.23
	金色の佛拜む秋の闇	2018. 5.29		わが銀河なれの銀河へ重なりぬ	
	金色の佛をろがむ秋の闇			わが銀河なんじの銀河重なりぬ	
	金色の秘佛を納め秋の闇			われの銀河なれの銀河へ重なりぬ	
	金色の秘佛小さく秋の闇	2018. 5.30		我が銀河君の銀河に重なりぬ	
	小さくて秘佛なりけり秋の闇			我が銀河汝の銀河重なりぬ	
	生々と金の秘佛や秋の闇			我と汝の二つの銀河重なりぬ	
夜長	秘佛には金の面影秋の闇			吾の銀河汝の銀河へと重なりぬ	
	金色の秘佛に焦がれ秋の闇			吾の銀河汝の銀河へ重なりぬ	
	冷蔵庫縦長にある夜長かな	2018. 2. 2	秋の川	自ら二つは一つ秋の川	2018. 3.26
	黒で書き赤で書き消す夜長かな	2018. 2. 8	虫籠	虫籠は終の棲家や茄子胡瓜	2018. 4.13
	黒で書き赤で書き足す夜長かな		秋扇	フラスコとトライアングル捨扇	2018. 5.12
	黒で書き赤線を引く夜長かな		踊り	踊りゆく目元口元盆の窪	2018. 5. 8
	赤で消し赤で書き足す夜長かな	2018. 4.12	終戦日	踏切のかんかん照りの終戦日	2018. 2.19
長き夜の赤で書き消し書き足して	2018. 5.14	干柿	干柿に遠き西日となりけり	2018. 2. 2	
八月	菊の香の神や仏の夜長かな	2018. 5.30		剥かれたる裸の柿の干されある	2018. 5.25
	菊の香の神の夜長の常夜燈			剥き終へし裸の柿を軒下に	
	菊の香に神や仏の夜長かな			剥き終へて裸の柿を軒下に	
				剥き終へし裸の柿を軒に吊る	
秋風	八月の朝飯を炊き船沈む	2017.11.20		軒下に裸の柿の干されある	
	八月の朝飯炊いて船沈む			軒下に裸の柿の吊されて	2018. 5.26
	八月や朝飯炊いて船沈む	2017.11.21		軒下に裸の柿の吊しある	
	八月や朝飯前に船沈む			軒下に裸の柿の吊られある	2018. 5.28
秋風	秋風や切株の香をどこまでも	2018. 5.11		軒端には裸の柿の吊られある	
	秋風や切株の香を運ぶべく			軒ふかく裸の柿の吊られある	
	戒名もなき切株に秋の風	2018. 5.13			
	秋風や切株は根を広げたる				
	切株の根の全開や秋の声				

干柿	軒深く裸の柿の吊られある	2018. 5.28	寒の雨	土くれと石ころに降る寒の雨	2018. 5.23	
	錆釘に裸の柿の吊られある			雪	足跡や雪の動物園を行く	2018. 5.21
	錆釘に裸の柿を吊しけり				足跡や動物園の雪の道	
	錆釘に柿の裸を吊しけり				圧巻の雪にひしやげし竹林	2018. 4.14
	<u>古釘に柿の裸を吊しけり</u>	2018. 5.29		圧巻の雪に潰れし竹林		
松手入	松手入針千本の中にな	2009. 6. 7		切株に雪の帽子の丸きかな	2018. 5.11	
	松手入針千本を惜しげなく	2018. 5.22		切株に雪の帽子の被せある		
	松手入針千本を容赦なく	2018. 5.23		切株の寒さに雪の帽子かな		
	<u>松手入針千本を降らせつつ</u>	2018. 5.29		切株にひとまづ雪の帽子かな		
蟋蟀	<u>蟋蟀の大きな影を夜といふ</u>	2018. 4.13		切株にひとまづ雪の帽子かな		
虫	<u>童謡が「あれ」と歌ふよ虫の声</u>	2016. 8.13		切株に雪の帽子の丸くある		
	切株の根の全開や虫の声	2018. 5.13		ひとまづは雪の帽子を切株に		
	切株は根を従へて虫の声	2018. 5.14		取り敢えず雪の帽子を切株に		
	切株は根を巡らせて虫の声			気休めの雪の帽子を切株に	2018. 5.12	
	切株の大いなる根や虫の声			切株に雪の帽子の似合ひけり		
	切株に大いなる根や虫の声	2018. 5.18		切株に雪の帽子的によく似合ふ		
	切株に永らへし根や虫の声	2018. 5.20		<u>切株に雪の帽子を被せやる</u>		
	切株に細密な根や虫の声			切株に雪の帽子を被せてやる		
	切株に息の根残る虫の声			大いなる雪の帽子が切株に		
	切株に存へし根や虫の声			枯野	土くれの中の石ころ枯野原	2018. 5. 2
	切株に息の根のある虫時雨			山眠る	<u>山眠る枯野も雪に眠るかな</u>	2018. 2.14
	切株に息の根残る虫時雨				山眠り海大荒れの蟹甘し	2018. 5.11
	切株の息の根あはれ虫の声	2018. 5.22			<u>山眠り海大荒れの蟹赤し</u>	
	切株の息の根哀れ虫の声				頂上に展望台や山眠る	2018. 1.29
秋刀魚	菜箸と同じ長さの秋刀魚かな	2018. 4.22	寒の水	金粉を金泥とする寒の水	2018. 5.22	
	<u>菜箸と同じ長さの秋刀魚なり</u>	2018. 5.13	氷	すぐ氷る少しの水のすぐ解ける		
秋草	<u>寂しさを埋めて秋草なに咲かそ</u>	2018. 2.27		<u>すぐ氷る少しの水のすぐに解け</u>	2018. 4.12	
菊	生々と金の秘佛や菊の闇	2018. 5.30	炬燵	一夏の間に老けし炬燵かな	2018. 4.22	
林檎	<u>包丁に林檎の種が付いてをる</u>	2018. 1. 5		<u>一年の間に老けし炬燵かな</u>		
短日	短日の小さく丸く籠りをる	2018. 5.23			仕舞ひたる間に老けし炬燵かな	
	短日の小さく丸く籠るかな			<u>年号の来年変る炬燵かな</u>	2018. 5.12	
	短日の小さく丸く籠るなり			来年は年号変る炬燵かな		
	短日を小さく丸く籠ること			年号の来年変る水仙花	2018. 5.29	
	短日を小さく丸く籠るなり		焚火	伸び伸びて焚火に焦がすものなき	2018. 5.12	
小春	人去りて小春のベンチ残りけり	2018. 1.13		焦がすものなくて焚火の伸び上る		
荒星	荒星の北海道の形かな	2018. 3.23		焦がすもの求め焚火の伸び上る		
	荒星は北海道の形かな		ブーツ	玄関にブーツを履いて立ち上る	2018. 5.20	
冬日	土くれも石ころもある冬日かな	2018. 5.23		<u>玄関にブーツを履きて立ち上る</u>	2018. 5.21	
	<u>土くれも石ころも冬の日を浴びて</u>		雪達磨	雪と雪だるまの暮るる雪の中	2018. 3.22	
寒の雨	土くれの中の石ころ寒の雨	2018. 5.21		太陽に向いてにこにこ雪達磨	2018. 2. 7	

雪達磨	太陽に向いて笑顔の雪達磨 <u>太陽と同じ丸顔雪達磨</u> 太陽に向いて明るし雪達磨 太陽に向いて朗らか雪達磨	2018. 2. 7 2018. 2.21	海鼠	降参の海鼠と化して海の底 願はくは海鼠のままに海の底 化かされし初な海鼠や海の底 化かされて海の底なる海鼠かな 化かされて海鼠となりぬ海の底 化かされて身は海底の海鼠かな 海底にひと世の夢を海鼠かな 海底に一世の夢を海鼠かな 深々と沈み海鼠に異常なし 着底の潜水艦と海鼠かな	2018. 5.28
クリス	<u>金銀を雪に散らしてクリスマス</u>	2018. 5.19			
鮫鱈	鮫鱈の縄張り一つ灯を点し	2018. 5.17			
冬眠	冬眠の龍の鼻息冬霞 <u>冬眠の龍の鼻息聞くべかり</u>	2018. 3.19 2018. 4.12			
海鼠	化ける気もなくて眠れる海鼠かな 化ける気もなくて静かな海鼠なり 化ける気もなくて眠れる海鼠なり <u>化ける気もなくて海鼠のままである</u> 化ける気もなくて海鼠は海の底 化ける術もなくて海鼠は海の底 化ける術わすれし海鼠重たけれ 化ける術わすれし海鼠不動なり 化ける術わすれ海鼠は海の底 化ける術忘れ海鼠は海の底 海底に海鼠に化けてあたりけり 海底に海鼠に化けて横たはる 海底の海鼠に化けてそれつきり 海底の海鼠に化けて一休み 海底の海鼠に化けて一眠り 海底の海鼠に化けて何もせず 一月の海鼠に化けて何もせず 荒海の手鼠に化けて海の底 荒海の手鼠に化けて沈みけり 冬深き海鼠に化けて何もせず 冬深し海鼠に化けて何もせず 世を捨てて海鼠に化けて海の底 世捨人海鼠に化けて海の底 うつうつと海鼠に化けて海の底 うつし世の手鼠に化けて海の底 <u>人の世に疎き海鼠が海の底</u> 厭世や海鼠に化けて海の底 願はくは海鼠と化して海の底 願はくは海鼠に化けて海の底 一層の事海鼠と化して海の底 斯くなる上は海鼠と化して海の底 <u>化かされて哀れ海鼠や海の底</u>	2018. 5.23 2018. 5.24 2018. 5.26 2018. 5.27 2018. 5.28	寒鯉 枯木 葱 龍の玉 水仙 寒椿 去年今年 松過ぎ 大晦日 数へ日 年の暮 行く年	<u>寒鯉の金の輪切が俎に</u> <u>水底は泥の静けさ寒の鯉</u> 推敲???花も葉もなき桜かな <u>ギター背に枯木の中を帰りけり</u> 葱白う青き処の折れ曲り 葱白う青き処は少し折れ 葱白う青き処は折れ曲り 葱白し青き処もありにけり 先の方青きもありて葱白し 葱白し青き処が先にあり 葱白し青き処が先の方 先の方青く折れたる葱白し <u>先方の青く折れたる葱白し</u> 緑濃きところ切られて葱白し <u>緑濃きところは捨てて葱白し</u> 緑濃きところは切られ葱白し 緑濃きところは捨てて葱の白 <u>爪痕もなくて全き龍の玉</u> 神の加護佛の慈愛水仙花 土くれの中の石ころ寒椿 去年今年少し呻りの冷蔵庫 冷蔵庫少し呻りぬ去年今年 <u>松過ぎの大根を切り刻みたる</u> 松過ぎの大根を切る切り刻む また一つ年の港を後にして 十二月三十一日冷蔵庫 <u>十二月三十一日来りけり</u> 数へ日の残る句数を書き写す 掃いて捨て掃いて捨てたる年の暮 <u>ゆく年の窓開けてみる直ぐ閉める</u>	2018. 5.12 2018. 5.22 2017.12.12 2018. 5.19 2018. 5.22 2018. 5.23 2018. 5.24 2018. 5.27 2018. 5.24 2018. 5.27 2018. 2. 2 2018. 5.21 2018. 5.19 2018. 5.22 2018. 5.21 2018. 5.25 2018. 5.26 2018. 5.21 2018. 5.20 2013. 1.24

初御空	国家とは大いなる家初御空	2018. 5.27	初雀	初雀一家を連れて来りけり	2018. 5.27
	一族の揃ふ目出度さ初御空	2018. 5.24		初雀つがひで来る目出度さよ	2018. 5.28
寝正月	神仏は近くにおはす寝正月	2018. 5.21	初雀	初雀一家で来る目出度さよ	2018. 5.28
	ドア開けて置ありけり寝正月	2018. 5.21		目出度さや番ひで来る初雀	
	静かさや猫も寝てゐる寝正月	2018. 5.21		目出度さや番ひで弾む初雀	
初笑	輪になつてわははわははと初笑	2018. 4.15	無季	松が枝に番ひで弾む初雀	2018. 5.29
	輪になつて一家わははと初笑	2018. 5.12		戒名もなく切株の背の低き	2018. 5.13
	輪になつてあははわははと初笑				
	打ち興じあははわははと初笑				
賀状書	賀と書いて賀状となせるあんこ玉		2018. 1.13		
く	賀と書いて賀状となせる水仙花	2018. 1.24			
	賀と書いて賀状となせり水仙花				
	賀と書いて賀状なりけり水仙花		2018. 1.30		
煤籠	煤逃に句帳に記す塵埃	2018. 5.20			
	煤逃に句帳に句屑句の埃				
	煤逃に句帳に句屑増やしけり				
	煤逃に句帳の屑を増やしけり				
	煤逃に句帳の屑を増やしつつ				
	煤逃の句帳の屑をまた増やす				
	煤逃や句帳の屑をまた増やす				
	煤逃や句帳の屑を増やしつつ				
	煤籠る句帳に記す塵埃				
	煤籠る句帳に塵の句埃の句				
	煤籠る句帳に塵や埃の句				
	煤籠る句帳の上の塵埃				
	煤籠る句帳の上の埃かな				
	煤逃の句帳の上の塵埃		2018. 5.21		
	煤逃の句帳に残る塵埃				
	年越		年越の重たきものに冷蔵庫	2018. 5.23	
年越の大きく重く冷蔵庫					
年越の大きなものに冷蔵庫					
初雀	初雀個々に名前は無けれども	2018. 4.13			
	一族で祝ぐ如し初雀	2018. 5.23			
	一族で祝ぐやうに初雀				
	一族で来て祝ぐや初雀				
	一族のやうに祝ぐ初雀				
	一族の祝ぐ声に初雀	2018. 5.24			
	一族の揃ふ目出度さ初雀				
	一族で来ての囀り初雀				
初雀一族を連れ来りけり					